

製品名: FAK ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21537**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:400-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:119kD;Observed MW:119kD

抗原情報

遺伝子名	PTK2 PTK2;FAK;FAK1;Focal adhesion kinase 1;FADK 1;Focal adhesion kinase-related
別名	nonkinase;FRNK;Protein phosphatase 1 regulatory subunit 71;PPP1R71;Protein-tyrosine kinase 2;p125FAK;pp125FAK
遺伝子 ID	5747.0
SwissProt ID	Q05397
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

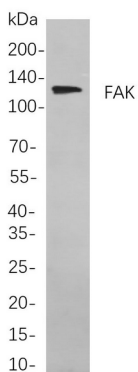
背景

細胞局在: 細胞質。タンパク質チロシンキナーゼ 2 (PTK2) ホモサピエンス。この遺伝子は細胞質タンパク質チロシンキナーゼをコードしており、細胞外マトリックス成分の存在下で増殖する細胞間に形成される接着斑に集中して存在する。コードされるタンパク質はタンパク質チロシンキナーゼの FAK サブファミリーに属するが、他のサブファミリーのキナーゼとの顕著な配列相同性は欠く。この遺伝子の活性化は、特定の神経ペプチドまたは細胞と細胞外マトリックスとの相互作用に応答して誘導される細胞増殖および細胞内シグナル伝達経路の重要な初期段階である可能性がある。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つかっているが、そのうち全長の性質が決定されているのは4つだけである。[RefSeq 提供、2015年10月]

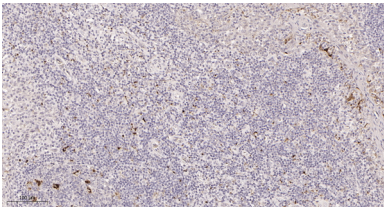
研究分野

-

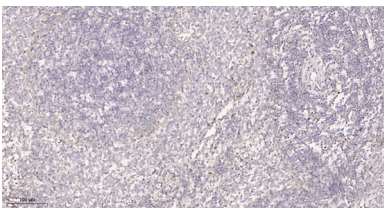
画像データ



FAK ウサギ mAb を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。



パラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学分析。1、FAK ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ラット脾臓組織の免疫組織化学分析。1、FAK ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。